

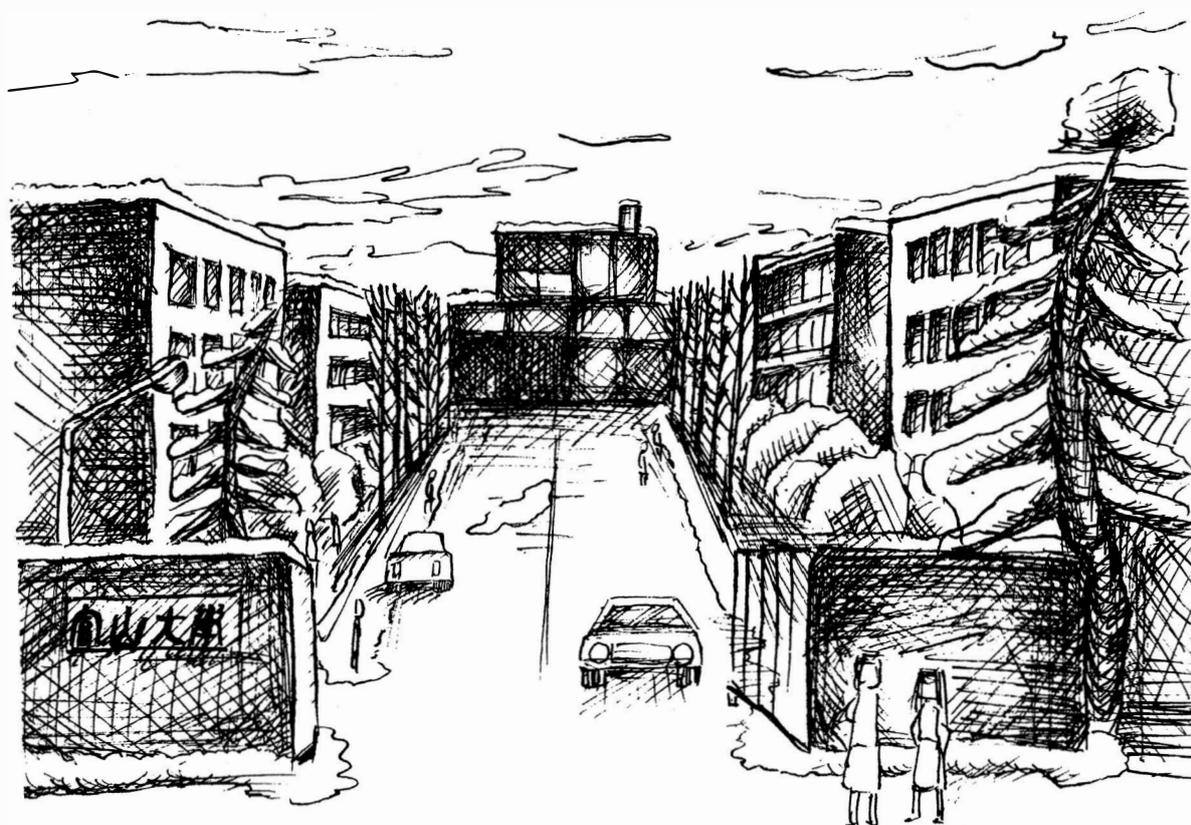
学園ニュース

富山大学

NO.38

編集 学園ニュース編集委員会 発行 富山大学

昭和57年3月15日



学内風景(その3) 正門まえ 近藤浩子

目次

卒業生への餞けの言葉	各学部長及び経営短期大学部主事	2
退職者のあいさつ		7
新任教官紹介及びあいさつ		9
Bay Bridge の彼方から	教育学部小学校教員養成課程(社会)4年 吉田誠夫	12
人文学部だより		13
学生部だより		13

卒業生諸君に

— 価値観の多様について —

人文学部長 本田 弘

卒業生諸君は、人生の一コマ、ほぼ四乃至数年前後、本学人文学部学生、文理学部学生として過したわけです。一部の諸君は、更に学業に励むとしても、大多数の諸君は、今日からは一市民として生活することになります。

師や学友と別れて、自らが選択した職業に従事する諸君の心身の健康をなによりも祈っておりますが、社会にでてからの活躍にも期待を寄せております。また再会することもあるでしょうが、一期一会の感慨も些かあります。期待の一端を述べて、餞のことばとしたいと思います。

普通善、あるいは真実の一つであるということがよく言われます。また逆にかような考えは、正しくはないとも言われています。ここではこうした問題に深く立ち入るつもりはありません。ただ人は、それぞれ己れの人生の支えとしての価値観をもって生きていますが、価値観、つまり何を善とするかは人によって異なるということを、何ほどかは理解しておいてほしいと、私は望んでおります。

例えば、諸君の多くもまた、日本人にとって善であるものは、ヨーロッパ人、中国人にとっても善であると考えていることでしょう。丁度中国の水も、ヨーロッパの水も、日本の水も水素と酸素とからなるごとく。善、正義は普遍的であると考えられているわけです。しかし、善・正義についてはかような普遍性は、期待されません。生き方に係わる諸問題についての意見は、同一の日常的事からについてをも含めて、多岐であり、善悪、正邪の区別はつけ難い。むしろ異なる意見を相互に尊重し合うことが正しく、かつまたそ

こに民主主義の本義があります。

纏めて言いますと、価値観は、民族において、時代において、社会において、個人において異なることをその本質としています。

敗戦より三十七年、民主主義の思想が日本人の心の中に植え込まれ、われわれもまた憲法の説く基本的人権、個人の尊厳を至高の価値とする思想が自らの心の中に定着するよう努めてきました。しかし、そうした努力にもかかわらず、日本人は、自説と異なる意見をも尊重する傾向に乏しく、劃一性、権威に従うことを善とする考えを自らの中から払拭することがなかなかできません。

上のことを生活に即して言えば、都会や地方を問わず、町内会、冠婚葬祭に見える慣行、近隣関係、家庭内における人間関係等等そこにおいては劃一性、個を全体によって律する思想がまことに支配的であると言わなければならないでしょう。私は、日本の伝統的思想と個個人の価値観を尊重する思想とは矛盾せず、むしろ国や地域社会のもつ独自の文化がより一層すぐれたものになるためには、異質の価値観を相互に尊重する気風を更にしっかり根づかせる必要があると、思っています。

卒業生諸君は、これまでは社会に対して傍観者の立場に立っていたでしょう。しかし、今日からは、社会人として主体的に生きるわけです。劃一性や権威への追従を排し、個人相互の生き方、思想を尊重するという生き方を生涯貫いてほしいと、またそのような生き方を子子孫孫に伝えてほしいと、念願しております。

教師像の創造を目ざして

教育学部長 大澤 欽 治

卒業生の皆さん、卒業おめでとう。

小学校に入学して以来10数年間の長い学窓生活の棹尾を飾る大学での学業を終えようとする皆さんの胸中はさぞ万感交々でありましょう。また皆さんを今日ま

で慈しみ育て、見守って下さった御家族の皆様のお喜びもさぞかしと推察いたします。

申すまでもなく、大学は人間的学者としての基礎的な能力を涵養する場ではありますが、これからは世のた

め、人のためになる勉強を生涯続けることになるでしょう。

教師養成を大学で行うという理念のもとに設置された、わが教育学部は既に30余年の歴史を積み重ね、今や壮年期を迎えつつあるように思われます。ところで、昨年この機会にも触れたことですが、好ましい教師養成に当っては、学問・技能の研究と、これらを背景として行われる教育実践の研究という二面性にとくに留意し、しかもこの両面の正しいバランスをとることが重要な問題だと思えます。つまり、知識や技能がいかに豊富かつ高度であっても、教師としての教育的情熱や実践力あるいは率先垂範の実行力が薄弱では好ましくありません。このたび本学部へ「教育実践研究指導センター」が付設されることになった趣旨も正にここにあるわけです。昨年の12月に催した「教育実習連絡協議会」では協力小・中学校から諸君の実習の様子について種々の報告を受けました。そして諸君の基本的姿勢が非常に立派で、年々資質が向上しているなどと、予想以上の好評をいただきました。諸君の方でも実習を通して教師の使命をひしひしと感得したことでしょう。私は諸君の真剣な顔や真摯な態度を見るたびに、私の40年余り昔の若かりし頃の感動をなつかしく回顧しています。

さて、ここで諸君に私の「座右の銘」三つをお贈りいたしましょう。これは私の教育実践の中で長い間いつも心掛けてきたことがらです。

①子供達は教師の能力の高さに比例して育つ。

この能力とは一体何を指すのか、考えてみて下さい。知識技能だけではありません。思いやりの心も人間の大切な能力になりますから。

②子供達の姿は教師の鏡である。

「子は親の鏡」とも言われていますが、人間にとって実は自分の姿は見えないものです。自画自讃する人ほど本当は自分が見えないようです。周囲の人びとを自分の姿を映す万華鏡として、自分の姿をそこに映して見る事ができれば素晴らしいことです。こう心がけて、私はいつも私自身の欠点がよく見えました。

③子供達の側に立てるようになろう。

相手の立場に立ってものを考えることは至難の業ですが、これは教育的センスの中で最も大きな要件の一つではないかと思っています。この心が、文化をつくる文化人の心であると言われるのです。

以上、別に目新しい言葉でもありませんが、私はこれらを感覚的に思わず実践できるようになりたいと念じ、日常生活の中で長いあいだ繰返し自己訓練をしましたが、成果はそれほどあがっていないようです。

諸君、何事に当たっても、中途半端なことでなく、徹底的にやり遂げてください。金銭や名声や肩書きにあまり関係のないすてきな教師像を身をもってつくりあげるよう邁進してください。

諸君の前途に幸多かれと祈っています。

卒業生諸君に望む

経済学部長 山崎佳夫

諸君の卒業を衷心よりお祝い致します。諸君は、小学校入学以来、16年間、よく学びよく遊んだ。しかしその間、お父さんやお母さんの絶大な財産的・精神的支えのあったことを忘れてはならない。諸君は、これまでに育てて下さった御両親に深く感謝しなければならない。

諸君が今、手にする卒業証書には色々な過去の思い出や将来の願いが込められているであろう。この卒業証書授与を御両親はじめ色々な人が喜んで下さっている。注目したいのは、卒業証書によって表象される諸君の卒業という事実である。この事実、本学の学籍

簿の記録に永久に止められるであろう。正にそれは諸君の人生に1つの新紀元を画するものである。諸君は、今日から経済的・精神的に1本立ちとなった。諸君は最早御両親から財政的援助をうけてはならない。これから諸君は、主体的に独立した人格として行動する。そして諸君の一切の言動に対し、諸君は責任をとらねばならない。

私事に亘つて恐縮であるが、私の学生時代の前半はペンをとり、後半はハンマーや銃をとることを余儀なくされた。私は学業半ばにして軍需工場や軍籍に身を置いたのである。忘れもしない終戦直後の昭和20年9

月、除隊となった私は、菅門（現在の富大正門）を出て娑婆に復帰した。直ちに大学へ戻ったところ卒業になっていた。復員軍人姿の私が、手にしたものは卒業証書であった。当時、私の家は韓国・群山にあった。外地引揚者となった私が職業にありついたのは、それから丁度1年後であった。私はデモ・シカ先生になったのである。その時私には、土地はもとより住む家もなかった。私は無一文の素寒貧であった。

「児孫のために美田を買わず。」諸君は親の財産を期待してはならない。河上肇先生の「貧乏物語」に遡るまでもなく、hungry精神はボクシングの世界チャンピオンを育てる原動力となった。現在諸君が保有する唯一の財産は卒業証書ないし卒業という事実であると思っほしい。

さて、日本の大学は入学し難く、卒業し易い。逆にアメリカの大学は入学し易く、卒業し難いといわれる。アメリカの大学によっては、入学生の半分しか卒業できない。後の半分は、転校を勧告されたり中退してゆくのである。日本の企業では、新入社員をその企業の方針に合わせて再教育するから、在学中の専門の勉強は余り喧しく言わない。そしてひと度社員として採用す

ると、終身雇傭制のもと厳しい環境下におくのである。私は、日本の企業には運命共同体（Gemeinschaft）的色彩が濃いと思う。

ところで今年の卒業生諸君の進路が、中央および地方の官庁・企業等に及び、多方面に亘っていることは誠に喜ばしい限りである。就職に際し、地元志向の要求もそれなりに意義があると思う。地方経済もまた日本経済につながるからである。いずれにせよ、注意したいのは、諸君が過度に家族中心主義を建前とし、小じんまりと纏ってしまうことである。諸君の才能が十分に生かされなくなるからである。中央であろうと地方であろうと、諸君は、広い視野に立って進取的・積極的に活躍してほしいのである。勤めの関係で、県外に出たり外国に進出することがあっても良いと思う。日本経済の将来を諸君に託する願いや切なるものがある。否、日本の経済は、諸君の双肩にかかっている。諸君の卒業に当り、hungry精神と進取の気性、この2つの言葉を私は諸君に贈りたい。

最後になったが、諸君はつねに健康に留意されるよう心から祈ります。

懐 中 電 燈

理学部長 竹 内 豊三郎

新しい仕事の開拓は必ずしも恵まれた条件のもとで成功したとは限らない。本人からみれば逆境に近い雰囲気であったことがかえって励みになって成功の動機となった例はいくらかもある。キュリー夫妻がラジウムを発見した過程はその素晴らしい例である。大切なことは求めているものを実現しようとする絶えざる努力であると思われる。

茅誠司先生が外国留学をしていた時、使用していた温度調節器を無断で誰かに横取りされてしまった。当時の日本人は時々白人からこのようなめにあったらしい。仕方なしに労力のかかる手動で観察することにした。しかし、このことが新しい磁気の特性を発見する動機となったという話がある。雪の物理学の開拓者として有名な故中谷宇吉郎先生が、北大へ赴任する時、恩師の寺田寅彦先生は、北海道に行つてバナナの研究をしようとするのは愚かしい、身边にあるものから題材を選ぶべきだと教えたそうである。中谷先生はまず積雪の物性の観測から始め、つぎに誰の気もつかない

手製の装置で人工雪を作ることに成功した。それは雪の核に兎の毛のこぶを使用することであった。

新しい職場に入って身じかなことからつぎつぎと仕事を拾い上げる現実派と、そこにないものにあこがれる浪漫派とがある。どちらも長所であるが、現実派は小さい世界に安住してしまふ恐れがあるし、浪漫派は不満派に変わつて実績を持たない人になってしまうことがある。仕事が進んでいる間は能力の進展があるが、止っていると退化してしまふ。常に進展しようとするためには、不満に負けていてはならない。

最近いろいろの分野で新しい測定機具が開発されている。大型になって高価になったものが多いから、誰でも自由に使用出来るとはかぎらない。新しい機具がないとこの職場で人生の将来がないように感じられるかも知れない。しかし、どんな機具でも自然現象の特定な片りんしか見えないものである。問題はそれで見つた片りんを自然現象の核心だと思ひこむ危険性である。富山大学創設の頃、湯川秀樹先生が講演に來られた。

その時の話の結びとして大変印象に残ったのはつぎのようなことであった。自然を解くために各研究者が持っている方法はたとえば視野の狭い懐中電燈で照らそうとするようなもので、それで照された中に何か貴重なことを発見出来たとしても、別の場所をそれで照してもその視野の中に目的のものが照し出されるとは限らない。自然のしくみの大きさに対して人間が持ち合せている能力は極めに微々たるものであるということであろう。相手は自然のことゝは限らない。人間に対

するときも同じで、部分だけを見たり、聞いたりして、相手の全人格を決めつけてしまうと大変なあやまちを起すことになる。学生々活は人生のうちの特定な部分で、こゝで経験したことから複雑な世界のしくみを判断することは大変困難なことである。これからいろいろな世界でたくさんの人と接することになるであろうが、そのためには自分の懐中電燈の視野と光度だけでも大きくするように心がけることが大切であろう。

文献はさきに読むべきか、あとで読むべきか

工学部長 大井 信 一

今年も多数の工学部卒業生が、希望と活力に満ちて学窓をあとにするのをみて、心から諸君の前途を祝福する次第である。然しながら、諸君を迎える社会経済環境には甚だ厳しいものがあり、21世紀にむかって、我国の産業活動に一大転機を迎えようとしているやに見える。石油その他の資源やエネルギーの確保に制約をうけ、労働集約型産業は発展途上国に追あげられ、他方先進欧米諸国との間には自動車その他の貿易摩擦を生じている。これらを解決するにはどうしても我国独自の知識集約型産業を振興し、付加価値の高い製品を輸出して行くより方法がないと思われる。その為には、日本人に一番不得意だと言われる「創造性」を強く要求されることになり、独創的技術による産業活動において生産性の向上を期さねばならない。我国の自動車は品質が良くて安い、また電子機器の中には世界一と言われるものもあるが、果して我国の独創的技術による産業活動であろうか。我国自動車工業のめざましい発展は品質管理を徹底的にやったのが最大の原因だと言われており、電子機器についても、集積回路をつくる機械は米国製のものが多いということである。我国の技術構造の特徴は、極めて商業主義的で効率の良いものであるが悪く言えば、物真似のそしりをまぬがれない。我国の明治以来、また近くは戦後の工業発展の要因の一つに、方法論として海外技術を手本に出来たことがあげられる。より進んだ海外技術の評価し効率的導入をはかる事が工業的繁栄への近道であった。その目的をとげる為海外の文献にいち早く目を通し、情報の収集に万全の努力をする様に技術者は教育されて来たと言っても過言ではない。海外のすぐれた技術

に精通し、技術開発につきもののリスクや無駄を最少にすることが出来たのである。然しこれからはそうはいかない。21世紀にかけて科学技術の世界的水準を抜くには、工学の領域で innovation をはからなければならぬ。その為創造性をのばす一つの方法として「文献はあとで読むべきだ」と言う考えがある。何かをやるうとする時、または何をやるべきかの段階から既に、文献の探索から情報の収集に精力を傾注し、能事終われりとする傾向に対する警鐘であろう。本来、科学技術の開発や研究に当っては、その思想なり、これまでの経過なりを知る為文献に先づ情報を求めるのが常道であろう。それを敢えて「文献はあとで読むべきだ」と考えるのは、思いきった発想の転換をはからねば、明治以来の教育が既に我国科学技術者の体質にまで昇華している現状を打破出来ないと考えるからであろう。もう一つは、来るべき21世紀における科学技術の飛躍的發展を期する為であろう。これから発展する科学技術の領域は学際的領域であろう。生命科学、遺伝子工学、ファインセラミックス、産業用ロボットその他のメカトロニクス等々である。これらの学際的領域においては、創造性がさらに優先する。既成工学領域にくらべて情報も少なく既成概念も通用しにくい。したがって、一見奇想天外な発想が場合によっては必要かも知れないということである。勇気をもって、「自分の考えでやってみる」べきであろう。文献はどの時点で読むべきか、今後真剣に考えてみる必要がある。卒業生諸君の今後の御活躍を祈念しながら、諸君自身が、この問題を解決されることを期待する次第である。

卒業を祝して

経営短期大学部主事 瀧 好 英

経営短期大学部卒業生の皆さん、このたびは、3年間の課程を終了し卒業の日を迎えられましたことを、心からお祝い申し上げます。お目出とうございます。

皆さんにとっては、私は全く馴染みのない存在でしょうが、本年1月から、前主事石瀬先生の後任として就任しています。わずか2ヵ月余りの在職で馴染みもない私から祝詞を述べるのはいかにも奇妙な感なきにしもあらずですが、年度の途中で任期が終了する制度のいたずらで、止むを得ぬ仕儀と申すべきでしょう。

経営短大に学ぶ皆さんは、夜間授業という特別な条件のもとに置かれており、一般のケースに倍する忍耐と努力が要求されます。それだけに、3年間の履修課程は、決して短いものではなかったと推測されます。しかし反面、有職者の勉学に適した条件が与えられていると解することもできます。事実、当経営短大在籍者総数に占める有職者数の割合は、年々漸減傾向にあるとは言え、昭和56年5月現在でなお73%に達しています。昼間は一般社会人として職場に就業し、夜間に通学する傾向のいかに強いかがうかがわれます。夜間通学という特別な条件のため、通学者はほとんど富山市およびその近郊に限定されているようですが、昭和34年に本短大が創立されて以来、20回におよぶ卒業生が巣立っていることを勘考すると、夜間という厳しい条件のもとでもなお向学心をもやしている人々がかくも多数おられ、現に志を全うしていることに敬服と称賛の念を禁じ得ません。

一体、私達人間は、何ゆえに書をひもときあるいは学問をするのでしょうか。一般には、「学問は人間性を向上せしめる」との説明もなされていますが、学問と人間性の向上とを直截的に結びつけるのは必ずしも容易ではないでしょう。また一方では、「学歴偏重社

会」などの批判の声も聞かれます。私は、この批判には、俄には賛同しえないものを感じています。現在の世間一般に、果たして、それほど学歴を偏重する風調があるのかどうか不明ですし、学歴を偏重するという表現自体がいかなる意味であるのかも、必ずしも明確ではないように思われるからです。

単純労働部門において、専ら反復訓練による習熟だけが要求される特殊な場合は別として、一般に、多くの職場においては、個性的・独創的発想に基づく創意工夫を必要とする部分がきわめて多いと思われる。そのような事態において、豊富な発想力、新しい感覚を発揮するためには、幅広い知識と経験を必要とするはずで、「学問する」ことは、こうした知識の幅を広げるのに不可欠な過程であると言えるでしょう。経済の法則では、1単位の成果を得るのに最少の犠牲(努力)を投入することを理論づけていますが、実社会における人間の進歩という点を勘案するときは、1単位の成果を獲得するために、できるだけ多くの犠牲(努力)を投入することの方が重要であるべきことが多いと考えられます。そのためにも「学問する」ことが必要であり、学歴は、習得しえた学問のレベルの一応の測度と考えるべきものではないでしょうか。言うまでもなく、実社会において要求されるのは、学歴自体ではなく、学歴に相当する知識水準であり人間性であることは否定すべくもないことです。

卒業生の皆さんは、短大という一つの段階における水準の学問を習得したことを保証されたこととなります。この3年間の経験を、実社会においてあるいは私生活においても、十分に活用され、豊かな人生を送られますよう期待して止みません。

□□□昭和57年4月1日退職者□□□

○昭和57年4月1日限り停年により退職

経済学部 文部教官 教授 新田 隆信

経済学部 文部教官 教授 岩淵 富治

お別れにのぞんで

経済学部教授 新 田 隆 信

わが富山大学の創設されたのは昭和24年、じらい春秋を送りむかえること38年、いつしか私にも停年退官の汐時がめぐって来た。人生のいきおい壮んな歳月を大学と共に歩みえた喜びを、尽きぬ思いで感謝する。潑刺たる学生諸君との不断の接触は、私にとって限らない希望と歓びを伴うものであった。又胸襟を披いて語りうる同僚や知己も、学の内外に少くなかった。去るに当って本大学への愛惜は一入である。

ただ私はうら若い日に大患に臥し、久しく健康上のハンディを負ったが、それが創り主を覚える十字架の信仰に導かれる契機となった。すべてのことが益となりうる証しである。幾たびか死の蔭の谷間をさまよひ、その度に医され回生しつつ、不惑をこえて症候もうすらぎ、後遺症的所見はともかく、一おう健かな心身に奇しくも復し、お別れを告げうることは、多くの方々のご好意の賜物であり厚くお礼を申し上げたい。

在任中の最も印象ぶかい思い出は、大学紛争の異常事態とそれを乗り切る様々の苦心である。舵とり失敗すれば、当時の時限立法たる「大学の運営に関する臨時措置法」第7条第2項によって、教育と研究とは休止及び停止に陥る危惧に迫られていた。それは重症校たる本学にとってダモクレスの剣を思わす危急存亡の瀬戸際を意味した。紛争の迅速な収拾は、幾多の要因が絡んで困難を極めていた。しかし終盤に至って限界状況は次第に改善の兆しを見せ、学生諸君の大多数が良識ある選択を謬らず、遂に累卵の危機は回避されたのである。究極的な愛校心を核として学園の正常化に総力を挙げ、秩序ある運営軌道を回復した軌跡は、ひとり教授会の功業にとどまらず、ひろく全学教職員各位のご協力のお蔭であった。また母校愛に張る越嶺会（同窓会）のタイムリーなご支援も、まさに空谷の跫音であった。

そのころ経済学部は諸般の事情から一学科体制のまま停滞を余儀なくされていた。紛争への対処を進めつつ再建方向を打ち出した昭和46年度以降、内規を成立させて教官人事を充実し、昭和49年に第二学科、昭和54年に第三学科を増設するまで、8年間にわたる努力は並々ならぬものがあった。かくて旧高商系国立10大学の本来的水準を達成すると共に、更に独自の発展を

期するに至っている。

1960年代の後半から1970年代の前半まで大学紛争は全国を覆う観があった。これは戦後の大衆型開放社会の成立に呼応し、高度経済成長に促されて大学生の急激な増加を招き、しかも管理運営の体系が戦前流のエリート型大学制度に拠った扞格に一因があろう。また核兵器の登場から地球の破滅を予感する不安意識の噴出形態とも解しうる面があろう。カント哲学の説く自己目的としての人格的尊厳性が軽視され、平等意識が過熱し、節度ある自由から歯止めのかからぬ放縦へと急傾斜した時代思想の趨向とも無関係ではあるまい。加えて外部のイデオロギー組織の学内浸透があり、群集心理の異常醗酵が募り、あの駭然たる狂乱風景を描き出したものと解されよう。

目的さえ正しければ手段は一切不問という考え方は、戦前にも存在した。精鋭とされた日本軍部の担い手たる一部青年将校は、屢々蜂起して「実力行使」の挙に出、政府首脳を血祭りにあげる昭和初期の不祥事を演じた。戦後も一部陣営は往々にして同様の短絡的な実力行使を続発させて来た。この風潮に触発された一部学生が体制変革を目ざし暴力的な実力行使を激発させたとしても、学生のみを咎めることはできない。ただ大学は政治的中立の場であるべき以上、暴力放任の政治闘争の舞台であってはならず、あくまで学問的精神や批判的理性的自由を練磨する道場たるべきものである。大学自治はその前提でこそ認められなくてはならない。

紛争当時、私は学部の責任者として各種の学生諸君とよく接触した。しかし面会強要、議場乱入、大衆団交などは、何れも感心しなかった。教官側の器量や徳性の不足は恥じる気持ちにたえかねたが、とどのつまり私は、いずれの学生諸君も教官との相互信頼に値する若き俊秀であることを、紛争体験を通して深く心に刻まれた。あのような紛争が一過性なのか再発可能性を宿すかは、軽々に判じ難いが、つねに真理は終局の勝利者であるとの信念に立って、手段や方法に大学生らしい分別を忘れず、人類の救済に向って創造的な役割を果たして頂きたいと祈求してやまない。円価に換算して年間121兆円に上る世界の軍事費総額一つを見ても、

イデオロギーの如何をこえて、平和への脅威は深刻である。国家の独立や威信が、軍事的安全をのみ楯として守り難いことは自明であろう。希わくば、絶望的状

況にも希望を失わず、兄弟愛の献身を実行する勇者たるの面目を、学生諸君の未来に待ち望みたいと思う。

ある「ことば」への郷愁

経済学部教授 岩 淵 富 治

毎年のことではあるが、3月の学園ニュースには、定年退官される方々の「ことば」が紙面に飾られ、これまで、私は、関心をもって拝読してきた。ところが、こんどは、私が、何かを書く立場になってしまった。光陰は、「あっ」という間に過ぎ去った。はやいものである。「歳月ひとを待たず」とか「光陰矢のごとし」などという古語が骨肉に沁みるこの頃である。

今のわが国は、平穩であるといわれている。私の青春時代は、戦争という動乱の渦の中にあつた。しかし、そのなかにあつても、一定の価値感が、浮き沈みする船から放たれた錨(いかり)のように、人びとのあいだに定着していたようである。現代の社会では、それが、あまりにも多様化し、乱れた麻のようで、どれを、どのように手さぐりすればよいのか、戸惑いすることが少なくない。時間と空間を乗り越えて、いつの時代にも、どここの国においても、通りあうような共通の価値観があつて然るべきであろうし、そういうものが論じ詰められることに望みをつないでいる。

私が学生の頃のこと。ある法律の授業時間だったが、めつたにチョークを持ったことのない先生が、黒板に、“**Pacta sunt servanda**”と大書し、熱っぽく長々と講義された。契約や約束ごとは、公序良俗に反しないかぎり、守るべきである、というのである。私の亡父は、口べたで、字を書くことも苦手だったが、取り柄といえ、まめに働いたことだった。人にだまされて窮地におちこんだこともあつたようであるが、自分から意識的に人をだますようなことは、けっしてしなかつたようで、約束ごとは、頭迷なほどに固く守っていた。このような生き方は、現代のように、せち辛くて嘘言の多い流動的社会では、流木のように押し流されるか、埋れ木のように葬り去られて朽ち果てる運命になるかも知れない。しかし、当時の社会では、彼のような生き方は、それなりに評価され、通用していたらしく、彼の生涯は、流木や埋れ木とはならず、天に向かって枝葉を支えた樹木のようにあつた。

同じく私の学生の頃のことである。ある外人教師が、“**you attitude**”

ということについて、繰り返えし、繰り返えし話された。その強い口調が、まことに印象的だった。自分のことを考える時には、つねに相手の身にもなって考える態度や心構えを持ちつづけるならば、社会は、うまく機能するし、結局は、自分にも、それが還元されるというのである。人間は、誰でも自分のことを第一義的に考えがちである。それは当然のことではあるが、その度合いが過ぎて、自分のことばかり考えて相手のことを無視するような人間ばかりが、寄り集まると、おたがいに相手の立場をつぶし合う結果になってしまつて、見憎い争いの場となり、自らも傷つくことにもなりかねない。天与の自由も、自分の自由への主張とともに、他人が享受することの自由をも尊重するものでなければ、相互に自由を阻害することになって、豊かな自由は保障され得ない。真の自由は、なんらかのルールの枠組みのなかにこそ存在するはずである。

ここで、私は、学生時代に刻みこまれた2つの「ことば」に触れた。これらの「ことば」は、爾後、永い間、私のからだのどこかで、かすかに点滅しながらも消え失せることなく存在しつづけてきたのである。時流とともに社会は大きく変転した。これらの「ことば」の社会にとっての意義も、個人にとってのそれも、近ごろでは稀薄になつたようである。しかし、私は、これらの「ことば」に、古き、よきものへの郷愁にも似た重いなにかを、ずっしりと感じないではいられない。

〔多謝御礼〕

私の在職中は、経済学部並びに全学の教職員の方々との温いご交誼、ご芳情に浴し、ことに学生部併任中は、後藤、林、柳田の諸学長をはじめ、本部、学生部の方々のご懇篤なご指導、ご教示を辱うし、深く感謝いたしております。ここに、厚くお礼申し上げます。

(S. 57 2. 1)

新 任 教 官

○ 横井 清 教授 (人文学部) 56.12.1
昭 37. 7 立命館大学大学院文学研究科修士課程
修了

担当：文化構造論

○ 松島 英子 助教授 (人文学部) 57. 1. 1
昭 48. 3 東京芸術大学大学院美術研究科修士課程
修了

(昭 55.12 パリ第一大学＝パンテオン・ソルボ
ンヌ大学博士号取得
担当：文化構造論)

○ 市村 憲司 助手 (トリチウム科学センター) 56.12.1
昭 55. 3 東京工業大学大学院理工学研究科博士
課程修了

担当：環境領域

どうか、よろしく

人文学部教授 横 井 清

3年ちかいブランクをへて、再び「大学」という世界に身を戻しました。私を迎え入れて下さった富山大学の皆さまに、まずは深甚の謝意を表します。

私は、ごく幼いころに、母の郷里の若狭で育てられた時期を除けば、雪らしい雪を見ぬ京都の町なかとその近郊で歳月をすごしてまいりましたから、新年に入ってからには連日の降雪のみごとさに驚嘆しつづけています。京都の友人たちは、寒かろう…といってくれますが、京都の底冷えという奴も仲々のしろもの。寒さという点では、特に困ることもありません。住まいの傍の神通川の堤に立つと、晴れた日には立山連峰が雄大な姿を見せてくれます。当分は家庭の事情で一人暮

らしますが、そのうちに、できるだけ早く、家族とともに当地に根を張りたいと念じているところです。

本学で与えられた任務は、「文化構造論」で、現在「比較文化」コースにポジションをえて勤務しております。なにぶんにも、いたって狭隘な専門領域内をうろろろしてきた者ですから、同僚各位のスケールの大きい「雑談」を耳にしているだけで気が遠くなりそうです。しかし、ここは一番、もちまえの好奇心(必ずしも知的でないのが難点ですけども)と心臓のつよさ(あつかましさ)とを頼りにして、富山大学の片隅に、ささやかながらも新生の気風に富んだ「お店」を張らせてもらいましょう。どうか、よろしく。

新任によせて

人文学部助教授 松 島 英 子

1月1日という、暦の上ではまことに切りの良い日付をもって、富山大学に着任いたしました。

昨年暮、東京から信越、北陸線をまわり富山駅に到着した時は、みぞれが降るあいにくの天気、何とも心細い思いがしたものです。雪国を知らずに今迄過ごして来た私にとって、富山で生活することに期待と不安が半々というよりは、4:6あるいは3:7くらいあったかもしれません。幸い今年には暖冬で時には晴

天に恵まれ、立山の雄姿に幾度か見とれては立ちつくし、今更ながらに自然の美しさ感動するチャンスを得ました。もともと父方の家は福井県にあったので、子供の頃旅行のついでに北陸に足を伸ばしたものでした。今度富山で仕事を始めることになったのも、何かの縁があつてのことのような気がします。海や山が近く、豊かな自然に恵まれた土地に来たのですから、これから暖かくなったらせいぜい出歩いて、いろいろな

発見をしてみたいと思っているところです。

以前外国に留学していた経験から言えば、知らない土地に移ってその生活や風習に慣れるまでには随分と時間がかかりますが、一度なじみ始めると愛着を感じ、かえって立ち去り難くなったりするものです。あ

せらず、ゆっくりと腰をすえて、生活に仕事に取り組んで行きたいと思っています。

学生諸君にも、富大の在学中に何か一つ、じっくり腰をすえて取り組むものを見つけ出してもらいたいものと、期待しております。

Future Wind

dedicated to J}ng-lub, who felt it too
ean-Pierre, who posed the question

Sometimes one feels the finger of Fate
pointing, leading or pushing.
What happens if one ignores it?
Perhaps the whole fist comes.

Most don't feel it, & explain their choices
in some rational human purpose.
But one way to know its strength
is in the improbability of what has happened.

Come, come. Don't resist; the future is waiting.
If it must come out that way, it will,
& there is nothing much a man can do about it
except to bend with that wind from to be.

For a wind does from the future blow
to put things in their proper place,
So that when the present, the past becomes
it does lead up to what will be.

Each thing has effects in both directions,
its past & future equally.
We say it "causes" what happens afterwards,
& "coincidence", what had to have been.

We remember the past, but not the future;
that gives us tunnel vision
To see what we have passed by
on a life-road looking backward.

In a great grand-prix of sand-cars
all racing backwards toward the future,
One sees well only where he's been
& what terrain he's bumped over.

To see the ruts & rocks a-coming
one could know why the cars collide,
But not seeing that, one calls it "chance"
& rides on willy-nilly.

If one could fix a collision,
then its results are fixed as well.
But so are its lead-ups, those ruts & stones,
that cause the collision to be.

To control each shudder of some tumbling dice
is impossible, to be sure.
But fix their final resting state,
& Nature does the rest.

The Future Wind blows equally
on man or beast or stone.
All help the future to be born;
do you feel the draft?

R. Hofmann 15 11 1976
Heidelberg



トマス・ロナルド・ホフマン

1937年生れ。イリノイ大学大学院(修士), ソルボンヌ大学大学院(博士, 言語学)修了。

オタワ大学助教授, 島根大学外人教師を経て, 1981年10月富山大学に赴任。国籍カナダ

新任 雑感

教養部助教授 海老原 直 邦

昨年10月に広島から越してきて4ヶ月が過ぎ、どうやら富山の街の地理も、ある程度頭に入り、雪の中の暮らし方のこつのようなものも何となくわかるようになってきたところである。富山に転任と決まって、最初に気になったのは、やはり雪のことであった。九州そして瀬戸内海沿岸と、温暖かつ殆ど降雪のないところで暮してきたので、2ヶ月も3ヶ月も深い雪の中に埋もれて、一体どうやって生活できるのかと、まさに想像もつかなかった。不安と半ば好奇心が入り混じったような気持でむかえた雪の季節であったが、多少の雪では電車もバスも止まらないどころか、タイヤが乱れることすらなく、日常生活に殆どさし障りがないとわかり、ホッとしたと同時に、やや拍子ぬけでもあった。もっとも、今年は例年より雪が少ないということ

であるから、たかをくくっていると、来年はひどい目に会うのかもしれない。

慣れない土地ではあるが、腰をすえて、いい研究、教育ができるように努力せねばと思っている。専門の心理学では、今まで行ってきた認知(あるいは認識)過程に関する実験的研究を今後とも続けていくとともに、人間の心や行動を科学的に理解するとは、そもそもいかなることであるのかという、いわば心理学の根本問題についてもじっくりと考えてみたいと思っている。また、学生教育に関しては、大学における一般教育のあり方や意義について、まじめに考えてみなければと思っている。独善に陥らないためにも、諸先生方そして学生諸君との胸襟をひらいた交わりを期待しています。

新雪の中、新たなる門出

トリチウム科学センター助手 市 村 憲 司

昨年の12月1日に、富山大学トリチウム科学センターに赴任して参りました。富山は、丁度、冬が始まろうとしている頃でした。今年の冬は、今年の豪雪とは違って、比較的暖冬の様子と聞いております。雪国に暮らすのは初めての体験である私には幸いと言えます。私にとって、雪は雪景色の美しさに連想され立山連峰の雪景色が特に印象にあり大いに気に入っておりますが、少し雪国の大変さも味わっている今日此頃であります。

私は、界面化学の研究から出発致しました。当所、鉄の防錆技術の基礎的解明を構造と物性の立場から行い研究の基本を知りました。次いで、鉄を含む酵素の物性およびその触媒作用に関する研究の中で、水素分子の電子を受け取った酵素が金属様の電導性をもつこ

とがわかり、自然界の不思議さを印象付けられました。また、特定の構造をもつ物質の表面物性と触媒作用の関連の研究も行って参りました。このように、私は、水素の関与する表面物性と反応性に大いなる興味を持っているものです。

昨今の科学の進歩は、その技術の飛躍的な向上と共に著しいものがあります。研究を始めた頃の測定装置の類は、大いに進歩し充実したものが使用されるようになってきておりますが、逆にこれらの充実により創造性・実質性のある研究を行い、これらを生かし得るか否かの大きな責任をかかえ込んでいると痛感しています。今後共、皆様方の御指導と御援助を戴きまして大いに頑張ろうと思う次第ですので、宜しくお願い申し上げます。

Bay Bridge の彼方から

教育学部小学校教員養成課程（社会）4年 吉田 誠 夫

自分の眼と身体でアメリカを確かめたかった。アメリカは楽しい国である。ただ、その楽しさにもいろいろな断面があり、きわめて多様な面をもつ。

Seattle で、初めてアメリカ本土に足を踏み入れた時の喜びと興奮。そして、これから始まるアメリカでの生活に対する期待と不安をかくしきれずにいた自分。そんな自分も、アメリカ人の笑顔と力のはいった握手に緊張感も消え、生のアメリカに触れるにつれ溶け込んでいった。

12月いっぱいBerkeleyのアパート、年が明けLos Angelesで1週間、Hawaiiで4日間という今回の滞在で、多くの人びとと出会い、予想以上に多くの経験を得た。

夏は日本人であふれるBerkeleyだが、アメリカ国内ばかりでなく世界中から人間が集まっているとあって、そこに住む人々のタイプ、生き方もさまざまである。そして興味深いのは、それぞれのカラーを持った人間が、自分のカラーを捨てずに、頑固といえるくらい、自分の個性、生き方にしがみついているところだ。他人の眼など気にせず、積極的に自分の思ったとおりに行動している姿は、見ていて気持ちがいい。いろいろな人間がいるというのは、広さのせいばかりではない。いろいろな生き方を許容できる寛大な土壌があるから、思うがままの生き方を実現できるのであろう。アメリカの学生達もその中で、自分は何をやりたいのか、何が健康的なのかをしっかりと見きわめているような気がした。

Berkeleyでのアパート暮らし、よく出かけた霧と坂が多いサンフランシスコ、毎日が新鮮な感動と失敗の連続で楽しかった。英語にはとにかく苦しみばなしだったが、わけのわからぬパーティーに巻きこまれたり、飲みに行き、いろんな学生と意気投合したりすることも多かった。プロバスケットボールの試合観戦に行った時の熱気と興奮。見知らぬ人と気軽に「ハイ」と声をかけあう限りない明るさ。その反面、夜の外出は絶対危険だと言われる黒人の多いオークランドの町。

バスの中でかくれてマリワナを吸っている黒人が、むせているのを見て思わず笑ってしまい、「まずい」と思ったら意外に笑顔が返ってきたこともあった。クリスマスの夜にはみんなでBerkeley Marinaのカクテルラウンジへ行き、踊ってもらった黒人の女性。ゴールデンゲイト橋を歩いて渡っている時に会ったブロンドの素敵な女性。どこへ行っても、笑顔があり、心の底から楽しもうとする姿が印象的だった。身に背負っている文化の異なった者同士が、コミュニケーションするむずかしさ、人間関係の大切さ、複雑さを強く感じた。

アメリカの学生は生き生きと勉強し遊ぶ。楽天的で飾らず大声で語り大きく笑う。そのせいか、富山はひどく暗く感じ、今もサンフランシスコに帰りたくてたまらない。ただ、少しは気持ちの余裕ができ、物事に対して積極的になったように思う。

レーガンの政治についての話や人種問題、映画、音楽、ビール、スキーなどについて、夜が更けるのも忘れて一生懸命わかりやすく話してくれたUCBの学生Stephen。いろんなことを教えてくれたGeorgeやBob。彼らと知り合えたのは何にも優る貴重な事だった。

短期間の滞在ではあったが、何も形式ばった留学ばかりが勉強ではない。その気になれば体当たりでいろんな人間と出会って、彼らの精神を学ぶこともできるのである。そして、離れた所から日本を少しばかり見直すことができたことは、これからの自分に役立つであろう。

日本で暮らしていくのだから日本だけでいいというのもわかるが、異国の文化に触れ、そこに我身を置いて暮らしてみるといっても、離れた所から客観視でき、日本を再認識するにも大切なことではなからうか。他人がつくったイメージで見るのではなくて、自分の肌で感じたアメリカは、パワフルで魅力的な国だった。

I left my heart in Berkeley,

——人文学部だより——

山口博教授『王朝歌壇の研究』を刊行。

本書は同名の研究書の第4冊目で、桓武朝より光孝朝に至る間、文学史的には、万葉集と古今集の間を対

象とする。文部省科学研究費刊行助成金による出版。

816ページ，24,000円，桜楓社刊

——学生部だより——

◇体育系サークルリーダー研修会について

本年度の研修会は、前年度同様2泊3日の日程で金沢大学辰口共同研修センターにおいて下記のとおり実施され、多数のサークル学生の参加のもとに活発な討論がなされ有意義に終了することができました。

●実施概要

期 日 昭和56年11月21日(土)～23日(月)〔2泊3日〕

場 所 金沢大学辰口共同研修センター

(石川県能美郡辰口町旭台)

研修生 体育会役員及び運動部リーダーの学生約80名

指導助言者 学生部長 教授 四谷 平治

教育学部 教授 河野 信弘

” 助教授 中川 孝

” ” 山下 三郎

” ” 横山 泰行

教養部 教授 稲垣 保彦

” 助教授 福田 明夫

研究項目

1. リーダーシップについて

2. クラブの諸問題について

講演 ”思い出に事寄せて”

(体育会会長 柳田 友道)



◇スキー講習会について

本年度のスキー講習会は、前年度同様1月7日から13日までの1週間にわたり、志賀高原ブナ平スキー場を中心として行われた。

平地に殆んどなかった雪も富山を出発の日から降り始め、志賀高原では新雪きらめく絶好のコンディションのもとに全員スキーの醍醐味を満喫し、講習の目的を十二分に果たすことができました。

これもひとえに指導教官並びに体育会の諸君の尽力によるものと深く感謝いたします。

◇スキー講習会に参加して

副実行委員長 経済学部2年 稲場 賢一

私はスキー講習会には初めての試みで、それに加えて体育会役員としての立場で参加しました。参加して思ったことは、期間中は充実しそれぞれ技術向上と親睦を深めたことと考えますが、役員としてこれにあたっての準備段階あるいは期間中に非常に苦労しました。当初より、役員とは自分の技術向上に加えて一般参加者の世話をしなければならぬものと言いつつも、

いよいよ当日出発するにあたって、なんと吹雪となり、非常な心配を胸にバスで立ち、あれよあれよという間に天気が変わることなく志賀高原に着いたので翌日からの講習を不安にさせました。私はスキーというものは初めてで、こんな天気の中でするのはあまりにも酷と不運に思ったことですが、なんのなんの翌日から晴天の連日、やったー、絶好のスキー日和！やるぞ！！と励んだのはいいものの、転んで、滑

って、又転んでの連続で全々スキーが足に付かず毎日が汗、汗、汗。役員ながらみんなの足を引っぱるとい
う惨めさでした。それでも最後にはパラレルターンも
まあまあ、なんとかスキーというものが分かりつつ感
じたしだいです。私でもこうですから、11班の人達全
員がなんらかを得て以前よりもうまくなったことと信
じています。又、夜は夜でおもしろいことの連日！班
ミーティングあり全体ミーティングあり、それに壮麗
な松明滑降に、バカ騒ぎした演芸会、こう思うと朝起
きてから夜寝るまで充実し切った時を過ごした気がし
ます。

ところで、期間中晴天に恵まれたは良いものの不運
とはこういうもので、後半は雪不足で地肌が見えるぐ

らいの雪面状態になり、思い切ったスキー動作ができ
ないほどでした。これに加えて疲労と慣れのせいもあ
って、けがをした人もいましたが体が元手、傷をして
はなんにもならないと深く感じたし、我々役員、関係
者にとってもよい勉強になりました。

振り返ると、短期間中のこのスキー講習会、いろい
ろな事があったようで今思うと哀愁が残ります。もち
ろん、私は来年も参加するつもりで、できることなら
なるべく多くの友達を誘って彼らにこの講習会のすば
らしさを知ってもらいたいです。みなさんも一度、こ
れに参加して見てはいかがですか！そして、みんな一
丸となってスキー講習会を発展させていくことができ
たら幸いと思っています。

◇学生証の査証について

1. 2. 3年次生は、各学部の学務係（教養部にお
いては学生係）で、昭和57年度の査証を行いますので

必ず受けてください。

なお、査証を受けない学生証は無効となります。

◇富山大学学生健康保険組合同規約の一部改正について

富山大学学生健康保険組合の規約の一部が下記のと
おり改正されましたので、お知らせします。

なお、詳細については厚生課保健係におたずねくだ
さい。

記

規約改正理由

健康保険法等の一部を改正する法律（昭和56
年3月1日施行）の制定により医療費給付関係

の規定の改定及び規約の整備を行った。

富山大学学生健康保険組合同規約の一部改正に伴う新旧対照表

旧	新
第11条 顧問は、各学部長、教養部長及び事務局長とする。	第11条 顧問は、各学部長、教養部長、保健管理センター所長及び事務局長とする。
第12条 理事は、補導協議会の委員、経理部長及び経理課長並びに各学部から選出された学生各1名及び教養部から選出された学生5名とする。	第12条 理事は、補導協議会の委員、経理部長及び経理課長並びに各学部から選出された組合員各1名及び教養部から選出された組合員5名とする。
第19条 理事会は、必要に応じて理事長が招集する。	第19条 理事長が必要に応じて理事会を招集し、その議長となる。
第22条 医療費は、歯科を除き次によって給付する。 ただし、年間を通じて組合員1人に支払う最高額は30,000円とする。 (1) 医療費の給付額は、そのつど医療費総額の3割とする。 (2) 入院の場合は、本人の食費並びに付添人の経費は除く。	第22条 医療費は、歯科を除き次によって給付する。 (1) 医療費の給付額は組合員が被保険者又は被扶養者となっている社会保険において定める自己負担額とする。ただし、社会保険利用者以外の組合員については医療費総額の3割とする。 (2) 前号に定める医療費の1人当りの年間総給付額は30,000円を限度とする。

- (3) 国家公務員共済組合，国民健康保険組合などの社会保険の被保険者又は被扶養者たる組合員に対しても，この規約により給付する。
- (4) 第1号及び第2号の医療費の査定は，社会保険診療報酬点数表に準拠して行う。

- (3) 入院の場合は本人の食費並びに付添人の経費は除く。
- (4) 第1号及び第3号の医療費の査定は，社会保険診療報酬点数表に準拠して行う。

附則（昭和56年12月22日改正）

この規約は，昭和56年12月22日から実施し，昭和56年4月1日から適用する。

◇学生教育研究災害傷害保険の運用上の取扱について

本保険は，大学における学生の教育活動中の災害事故に対する全国的な救済制度として昭和51年度から発足し，年々改善充実がはかられていますが，このたび現行の本保険の約款改正を行わず運用上の取扱により担保範囲が拡大され，下記のとおり昭和56年9月1日

から適用されることになりましたので，お知らせします。

なお，詳細については厚生課保健係におたずねください。

記

	現 行	新 し い 取 扱
休憩時間の取扱について	休み時間中에서도通常授業と一体とみられる場合は，本保険の対象となる。	当該学生が最初の授業のため校舎に入ってから最終の授業が終了し校舎ををるまで校舎内にいる間に生じた事故は，本保険の対象となる。 ただし，売店・食堂・サークル室（部室）・学生寮・寄宿舍等にいる間に生じた事故は，本保険の対象とならない。
学校行事の取扱について	学校で主催する行事であれば本保険の対象となる。 したがって学校が主催しない行事（自治会主催の体育祭・学園祭等）は，本保険の対象とならない。	学校で主催する行事であれば本保険の対象となる。 ただし，学校が主催しない行事（自治会主催の体育祭・学園祭）であっても，学校を休校とし，学生が全員参加できるよう学校が特別の便宜をはかった場合は学校行事とみなし本保険の対象となる。 したがってただ単に学校が協力，後援するものは，本保険の対象とならない。
課外活動の取扱について	① キャンパス内の課外活動は本保険の対象となる。 ② 大学が課外活動のために大学の施設以外の施設を借用した場合，大学が事前に貸主に対して借用願い等を提出しなければ本保険の対象とならない。したがって，保険金請求の際，事前に大学が貸主に提出している借用願などの書類が必要である。	① 現行どおり ② 大学が課外活動のために，大学の施設以外の施設を借用した場合，貸借関係が明確であれば本保険の対象となる。 その貸借関係の裏付けとして，保険金請求の際その貸借関係が立証できる書類を提出する。 この場合，事後であっても貸借関係が立証できればよい。

◇ 昭和 57 年度 富山大学入学志願者数調

学 部	学 科・課 程	昭和 5 7 年度			昭和 5 6 年度			備 考
		募集人員	志願者数	倍 率	募集人員	志願者数	倍 率	
人文学部	人 文 学 科	90	393	4.37	90	316	3.51	
	語 学 文 学 科	80	275	3.44	80	148	1.85	
	小 計	170	668	3.93	170	464	2.73	
教育学部	小学校教員養成課程	140	239	1.71	140	293	2.09	
	中学校教員養成課程	50	131	2.62	50	133	2.66	
	養護学校教員養成課程	20	72	3.60	20	66	3.30	
	幼稚園教員養成課程	30	138	4.60	30	145	4.83	
	小 計	240	580	2.42	240	637	2.65	
経済学部	経 済 学 科	120	202	1.68	120	260	2.17	
	経 営 学 科	120	337	2.81	120	360	3.00	
	経 営 法 学 科	60	182	3.03	60	120	2.00	
	小 計	300	721	2.40	300	740	2.47	
理学部	数 学 学 科	40	80	2.00	40	96	2.40	
	物 理 学 科	40	60	1.50	40	69	1.73	
	化 学 学 科	40	94	2.35	40	82	2.05	
	生 物 学 科	30	80	2.67	30	75	2.50	
	地 球 科 学 科	30	60	2.00	30	78	2.60	
	小 計	180	374	2.08	180	400	2.22	
工学部	電 気 工 学 科	50	102	2.04	50	93	1.86	
	工 業 化 学 科	45	170	3.78	45	158	3.51	
	金 属 工 学 科	40	138	3.45	40	136	3.40	
	機 械 工 学 科	50	159	3.18	50	104	2.08	
	生 産 機 械 工 学 科	40	93	2.33	40	133	3.33	
	化 学 工 学 科	40	104	2.60	40	92	2.30	
	電 子 工 学 科	40	78	1.95	40	64	1.60	
	小 計	305	844	2.77	305	780	2.56	
合 計		1,195	3,187	2.67	1,195	3,021	2.53	

◆ 学園ニュース編集委員

学生部長 教授 四谷 平治
 人文学部 " 山口 博
 教育学部 " 大塚 恵一
 経済学部 " 棚田 良平
 理学部 " 松本 賢一
 工学部 " 多々 静夫
 教養部 助教授 木越 治